

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-3-3 国際化と多文化共生の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 文化国際課長 坂本 偉健 電話番号 0852-22-6006

事務事業の名称	国際海外協力事業	
目的	(1) 対象	海外地域住民（島根県との友好交流先、島根県から海外移住した者の子孫）
	(2) 意図	島根県が持っている様々なノウハウを海外に移転し、地域間交流の拡大を図る。
事業概要	県単独事業のほか、自治体国際化協会と連携した自治体職員交流極力事業や、JICA日系人技術研修員協力事業を活用しながら、県や民間企業等で研修生を受け入れるもので、26年度は、吉林省政府の職員を1名県庁で、ブラジルから2名を民間企業（ネットワーク応用通信研究所）で研修した。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
		研修員受入人数 / 研修員受入目標人数	実績値	3.00	2.00	2.00	3.00		
			達成率		100.00	100.00	150.00		%
	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費 (b) (千円)	5,279	3,907
うち一般財源 (千円)	2,910	2,910

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

姉妹・友好交流先及び南米の県人会から自治体職員や民間人を受入れ、行政機関や民間企業等で研修を実施するもの。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

国際協力事業として、派遣元との交流促進に貢献した。帰国後も島根での経験を活かし、良き理解者として活躍して欲しい。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」  
予算の制約があり、交流先の数に比して受入人数が限られる。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
県財政の逼迫にともなう予算削減。
- ③原因を解消するための「課題」  
財政的に限られるため、県費以外での事業費を探す。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

国際協力という、県民生活の課題に直結する事業では無いので予算増は見込めないが、周辺諸国との連携強化や歴史的背景から、地道に継続して取り組んで行く。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）